

『ぐるんぱのようちえん』 [Eホ/グ]

西内みなみ/さく
堀内誠一/え
福音館書店



ひとりぼっちで、さびしがりやのぞうのぐるんぱは、ジャングルを出て、働きに行くことになりました。ピスケット、お皿、靴、ピアノに自動車。ぐるんぱのつくるものは、大きすぎて誰も買ってくれません。だから、「もうけっこう」とすぐに言われてしまいます。ぐるんぱは、しょんぼり・・・。

『アンガスとあひる』 [Eフ/ア]

マージョリー・フラック/さく・え 瀬田貞二/やく
福音館書店



こいぬのアンガスは、みるもの、かぐもの何でも知りたがりです。そんなアンガスが、いちばん知りたいことは、庭のむこうから聞こえてくるやかましい音の正体でした。ある日、うっかり開けっ放しになっていたドアからアンガスはおもてに飛び出しました。かきねをこえて、庭のむこうに出たアンガスは、そこで2羽の白いあひるに出会います。

『しょうぼうじどうしゃじぶた』 [Eヤ/シ]

渡辺茂男/さく 山本忠敬/え 福音館書店



じぶたは古いジープを改良した消防車です。人気ものの大きなはしご車やポンプ車、きゅうきゅう車に囲まれていつもさびしい思いをしていました。そんなある日、山小屋が火事になってじぶたの出番がきました。せまい山道は大きい消防車では走れないからです。じぶたはせまい山道を走って・・・。

『おふろだいすき』 [Eハ/オ]

松岡享子/作 林明子/絵
福音館書店



ぼく、おふろだいすき。きょうも、あひるのプッカといっしょにおふろにはいるよ。あれ、プッカがおゆにもぐったと思ったら、あわててういてきた。そして「まこちゃん、おふろのそこに、大きなかめがいますよ」とぼくにいった。すると、おおきなかめがういてきて、ぼくに変なことを聞くんた。

『おいしいのぼうけん』 [Eタ/オ]

ふるたたるひ/さく たばたせいいち/え
童心社



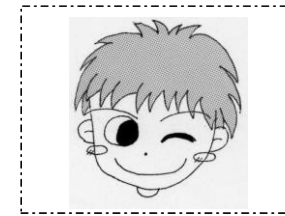
さくらほいくえんにはこわいものがふたつあります。ひとつはおしいれでもうひとつはねずみばあさんです。ある日、ひるねの時間にけんかをしたさととあきは、せんせいにおしいれに入れられてしまいます。すると、びきみな声がかして・・・。

『ラチとライオン』 [Eペ/ラ]

マレーク・ペロニカ/ぶん・え
とくながやすもと/やく
福音館書店



ラチは世界中でいちばん弱虫な男の子。犬をみれば逃げ出すし、暗い部屋にも入れません。その上、友だちまでもこわいのです。だからラチはいつも一人で絵本を読んばかりいます。ある日、ラチがお気に入りのライオンの絵本を読んで「ぼくにもこんなライオンがいたら」とつぶやくと・・・。



TO:
本を楽しむあなたへ
(3歳～5歳向き)

FROM:
へきなんしみんとしょかん

『三びきのやぎのがらがらどん』 [Eフ/サ]

マーシャ・ブラウン/え
せたていじ/やく 福音館書店



むかし「がらがらどん」という名の三びきのやぎがいました。ある日、三びきは山へ草を食べに行くことにしました。しかし、とちゅうで、きみのわるい大きなトロルがすんでいるたにがわの橋をわたらなければなりません。三びきは相談して、いちばん小さながらがらどんからわたることにしました。小さながらがらどんが「がたこと・・・」と橋をわたっていくと・・・。

おうちのかたへ
毎日、少しずつ成長していくお子さんたち。その成長や興味に合わせて、いろいろな絵本を読んであげてください。子どもは、絵本の世界を楽しみながら、登場人物と一緒に様々なことを経験して、想像力や思いやりの心、生きていく上での知恵や希望を育てていきます。
また、お母さん・お父さんをはじめ、絵本を読んでくれる人の温もりを感じて、幸せな気持ちになります。
3歳～5歳向きとしてありますが、必ずしもこの年齢で、ということではありません。また、この他にも良い本はたくさんあります。図書館では、職員が読書のいろいろなご相談にも応じていますので、どうぞお気軽にお尋ねください。

おはなし会

図書館では絵本の世界を楽しんでいただけるように、絵本・紙しばいの読み聞かせなどを行う「おはなし会」を定期的を開催しています。ぜひ、お越しください。

- 本館 毎月第2・4土曜日
10:30～
碧南市鶴見町1-70-1 41-0894
- 南部分館 毎月第4日曜日
10:30～
碧南市塩浜町7-135 42-8211
- 中部分館 毎月第3土曜日
10:30～ 41-1980
碧南市源氏神明町2

★『ぐりとぐら』 [Eヤ/ク]

なかがわりえこ/さく
やまわきゆりこ/え
福音館書店



「このよでいちばんすきなのは、おりょうりすること、たべること」という、のねずみのぐりとぐらが、森で大きなたまごを見つけました。2ひきは、そのたまごで、大きくてふわふわのカステラを作ることをつきました。

『はらぺこあおむし』 [Eカ/ハ]

エリック・カール/さく
もりひさし/やく
偕成社



あたたかい日曜日の朝、たまごからちっぽけなあおむしが生まれました。生まれたばかりのあおむしは、おなかかぺこぺこ。そこで食べものをさがしはじめました。さて、このはらぺこのあおむしはどんなものを食べたのでしょうか？

★『11ひきのねこ』 [Eバ/ジ]

馬場のぼる/さく
こぐま社



いつもおなかかぺこぺこの11ひきのねこがいました。山のむこうの広い湖に、大きな魚がすんでいることを聞いたねこたちは、魚をさがしに出かけました。山をこえ、野をこえ、ずんずん行くと広い湖がありました。そこに・・・。

『わたしのワンピース』 [Eニ/ワ]

にしまさかやこ/えとぶん
こぐま社



空からふわふわ落ちてきた白いきれで、ウサギはワンピースを作りました。できあがったワンピースを着てウサギは散歩に出かけます。まっ白なワンピースはお花畑を散歩すれば花もように、雨にぬれたら水玉もように変わるとってもおしゃれなワンピース。

★『ティッチ』 [Eハ/テ]

パット・ハッチンス/さく・え
いしいももこ/やく
福音館書店



ティッチには、にいさんとねえさんがいます。ティッチが持っているものは、にいさんやねえさんのものにくらべて、小さなものばかりです。でも、ある時、ティッチのものが、一番大きくなりました。それは・・・。

★『14ひきのあさごはん』 [Eイ/ジ]

いわむらかずお/さく 童心社



おとうさん、おかあさん、おじいさん、おばあさんに10ひきの兄弟。14ひきの家族の新しい1日が始まります。四季折々の美しい自然と行事を14ひきの家族が教えてくれます。シリーズがたくさんありますので他のものも読んでみてください。

『大きなかぶ』 [Eサ/オ]

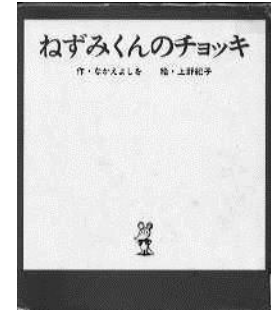
ロシア民話 A. トルストイ再話 内田莉紗子/訳
佐藤忠良/絵 福音館書店



おじいさんがかぶをうえました。「おおきなかぶになあれ。あまいかぶになあれ」。おじいさんの願いどおり、とても大きくておいしそうなかぶができました。いよいよ収穫です。ところが、おじいさん一人では、かぶはぬけません。そこで、おばあさん、孫娘、いぬ、ねこ、ねずみと次々に呼ばれて、みんなで一緒に「うんとこしょどっこいしょ」。かぶはぬけるのでしょうか？

★『ねずみくんのチョコッキ』 [Eウ/ネ]

なかえよしを/さく
上野紀子/え ポプラ社



おかあさんがあんでくれた赤いチョコッキは、ねずみくんにぴったり。そこへ、あひるくんがやってきて、チョコッキをかりていきます。次にさるくん、その次はあしかくんが…と、次々にいろいろな動物がチョコッキを着てみます。チョコッキは、ちゃんともどってくるのかしら？

『わたしとあそんで』 [Eエ/ワ]

マリー・ホール・エッツ/ぶん・え
よだじゅんいち/やく 福音館書店



はらっぱに遊びにきたわたし。バツタ、カエル、かめ・・・出会った動物に「あそびましょ」と声をかけ近づきますが、だれも遊んでくれません。ところが、池のそばの石に座っていると、どこかへ行ってしまった動物たちが戻ってきて・・・。

『ガンピーさんのふなあそび』 [Eバ/カ]

バーニンガム/さく みつよしなつや/やく
ほるぷ出版



ガンピーさんのふねに、子どもや動物たちが次々に乗ってきます。最初は舟遊びを楽しんでいましたが、子どもたちがケンカをし、動物たちが騒ぎ始めました。そして、とうとう船は川の中でひっくり返ってしまいます。でも、ガンピーさんはあわてません。

『めっきらもっきらどおんどん』

長谷川摂子/作 ふりやなな/画 [Eフ/メ]



遊び相手がいなくてつまらないかんたは、大声でめちゃくちゃな歌をうたいました。その歌に合わせて、おかしな声が聞こえてきます。かんたが声のする穴をのぞきこんだら、中から強い風がふいてきて、かんたは穴にすいこまれてしまいます。

「はじめてのおつかい」 [Eハ]

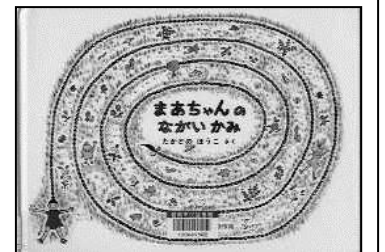
筒井頼子/さく 林明子/え
福音館書店



ある日、ママがみいちゃんに言いました。「みいちゃん一人でおつかいできるかしら？」みいちゃんは一人でおつかいをしたことはありません。でも、ママはとても忙しそう。みいちゃんは一人でおつかいに出かけます。

『まあちゃんのながいかみ』 [Eタ/マ]

たかどのほうこ/さく 福音館書店



まあちゃんは髪を長くのばそうと思っています。でもそんなにのばしてどうするのかしら。それに、とかしたり、あらったりが大変じゃないかしら。だいじょうぶ。まあちゃんは、ちゃんと考えています。それはね・・・。

『だるまちゃんてんぐちゃん』 [Eカ/タ]

加古里子/さく・え 福音館書店



だるまちゃんは、てんぐちゃんの持っているうちわがほしくなりました。うちに帰っておおきなだるまどんに「てんぐちゃんが持っているようなうちわがほしいよう」といいます。だるまどんは、たくさんのうちわを出してくれますが、だるまちゃんの気に入るようなものはありません。だるまちゃんは考えているうちにいいことを思いつきます。だるまちゃんの持ってきたうちわを見て、てんぐちゃんは「いいうちわだね」とほめてくれました。すると、今度はぼうしがほしくなって・・・。